

令和7年度 千葉県における「まだい太平洋中部系群」に係る資源管理協定の取組効果の検証結果（中間）

（1）千葉県におけるマダイの漁業実態

千葉県におけるマダイは、マダイ太平洋中部に位置づけられており、銚子沖から内房海域にかけて主に小型機船底びき網漁業、つり漁業、刺し網漁業で漁獲される。

（2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価において判断される中位以上の資源水準（漁獲量で1年当たり117トンを上回る資源水準）を維持する。

該当する資源管理協定

「まだい太平洋中部系群」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、6漁協所属の約30名がマダイを対象とした協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、6協定となっている。

| 協定 | 備考 | 協定 | 備考 | 協定 | 備考 |
|-----|----|-------|----|-----|----|
| 新富津 | | 御宿岩和田 | | 海匝 | |
| 天羽 | | 九十九里 | | 銚子市 | |

本検証の対象協定

自主的取組

| 漁業の種類 | 資源管理の取組 | 取組の内容 | 備考 |
|-----------------------------|---------|------------------------------|-------|
| 小型機船底びき網漁業 つり漁業 刺し網漁業 | 休漁日の設定 | 休漁日の設定（毎週火曜日・土曜日） | 新富津 |
| | | 休漁日の設定（天羽漁業協同組合魚市場公休日） | 天羽 |
| | | 休漁日の設定（第1・3土曜日） | 御宿岩和田 |
| | | 休漁日の設定（日曜日・祝日） | 九十九里 |
| | | 休漁日の設定（飯岡漁港及び銚子漁港魚市場の両方の休業日） | 海匝 |
| | | 休漁日の設定（銚子漁港魚市場の休業日） | 銚子市 |
| | 種苗放流 | 種苗の中間育成及び放流 | 全協定 |

協定に記載されている取組

(3) 資源管理の取組状況

本県における漁獲量は、1996年以降100～200トン前後で推移し、2014年以降は増加に転じ、2017年は過去最大の435トンが漁獲され、2023年は303トンとなった(図1)。県の令和7年(2025)度資源評価では、現在の資源動向は横ばい、資源水準は中位となっている(図2)。協定参加者による検証(自己点検)では、漁獲量及びCPUE(単位努力量あたり漁獲量)は、4地区で増加、1地区で維持、1地区で減少と判断された。なお、漁獲量及びCPUEを減少と判断した1地区及び増加と判断した4地区のうち1地区では、その理由として海況の変化が挙げられていた。また、漁獲努力量は、漁獲量及びCPUEが増加していると判断した4地区のうち2地区で増加、2地区で維持と判断され、他2地区では維持と判断された。魚価は、5地区で維持、1地区で低下していると判断された。

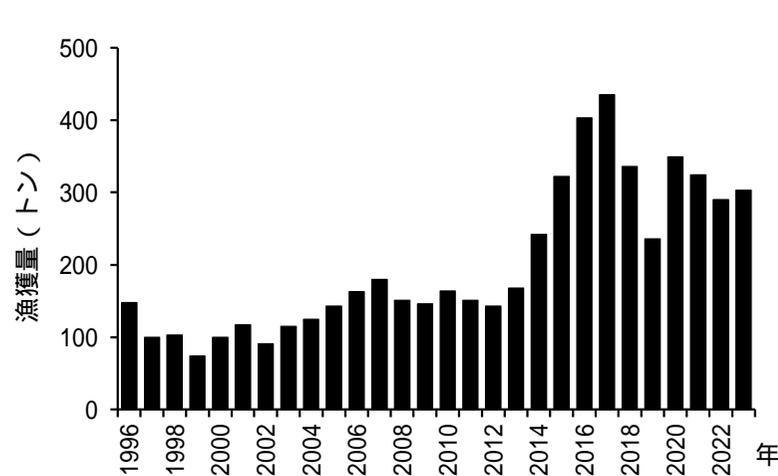


図1 千葉県におけるマダイ漁獲量と放流尾数の経年変化
(千葉県調べ)

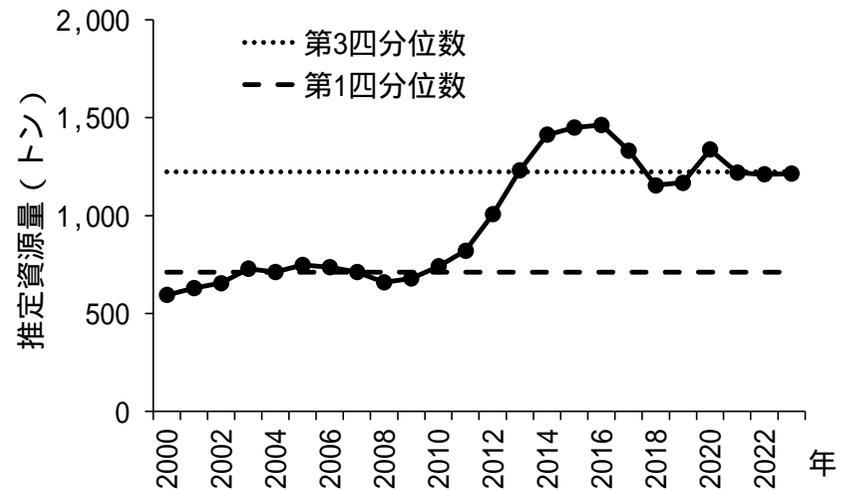


図2 千葉県におけるマダイ推定資源量の経年変化
(千葉県調べ)

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

マダイは2010年以降中位水準以上を維持しており、自己点検において多くの地区で取組の効果があると判断されていることから、漁業者がこれまで実施してきた資源管理の取組が資源維持の一助になっていると考えられる。一方で、地区によっては「取組の効果は感じない」と判断されており、効果を感じられない要因は海況による影響と判断されている。近年は黒潮大蛇行などの海況の変化が顕著であったことから、海況が要因となっていた可能性は否定できない。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海況を始めとする海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。